科目ナンバリング	U-LAS05 10003 LJ40				
授業科目名<英訳>	文化人類学II Cultural Anthropology II	担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授	岩谷　彩子	
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(基礎)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	木3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

本講義では、「マテリアル・ターン」（material turn)とでもいうべき近年注目を集めるもの研究の人類学的展開をふまえ、ものを通して人間世界を捉える視点の重要性について考察する。ものから人間世界をとらえなおす視点とは、主―客、精神―身体の二項対立に根ざした近代的思考を再考する視点である。さまざまなものに翻弄され、ものに突き動かされながら行為してきた人間について、異なる事例から検討を加えることで、人ともの、環境がつくりだす多様なネットワークのあり方に迫ってみたい。

[到達目標]

人間中心主義的な思考を脱し、人間が異なるものや環境と連関しながら社会を生成している動態を理解する。

[授業計画と内容]

1．講師と講義の紹介
2．「もの」からみる世界
3．はじまりの「もの」―ことば・呪文・罠
4．イメージと「もの」―壁画からアートへ
5．ものの収集と展示―キュリオからミュージアムへ
6．痕跡としてのもの―想起・記念・反想起
7．魅惑するもの―フェティッシュの地平
8．動物と人間のあいだにあるもの
9．食べられるものと食べられないもの
10．着脱可能なもの、不可能なもの
11．居住空間におけるもの
12．廃棄されるものと再利用されるもの
13．ホンモノとニセモノ
14．消えゆくもの―香り、音
≪期末試験≫
15．フィードバック

[履修要件]

できるだけ他の人類学関連の講義を履修しておくことが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

授業での発表または発表へのコメント（30%）、課題レポート（20%）、学期末テスト（50%）で評価する。

文化人類学II(2)へ続く↓↓↓

文化人類学II(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
内堀基光『「もの」の人間世界』（岩波書店）
田中雅一『フェティシズム論の系譜と展望』（京都大学学術出版会）
床呂郁哉・河合香吏編『ものの人類学』（京都大学学術出版）
ブリュノ・ラトゥール『社会的なものを組み直すーアクターネットワーク理論入門』（法政大学出版局）
Appadurai, Arjun『The Social Life of Things: Commodities in a Cultural Perspective』（Cambridge University Press）
Boivin, Nicole『Material Cultures, Material Minds: the Impact of Things on Human Thought, Society, and Evolution』（Cambridge University Press）
Gell, Alfred『Art and Agency: An Anthropological Theory』（Oxford University Press）
Miller, Daniel『Material Culture and Mass Consumption』（Basil Blackwell）

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書はもとより、講義で扱う文献にできるだけ目を通して講義に臨むこと。

[その他（オフィスアワー等）]

各回の冒頭で受講生によるプレゼンテーションとディスカッションを行うため、履修制限を行う。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部